薬用植物展の展示記録

在岡　郁雄

薬用植物展のあらまし

広島市植物公園では開園翌年の昭和52年から毎年薬用植物展を行っており、平成23度で35回目となる。開催時期については開園当初は6～10月のいずれかの一ヶ月間だったが、近年は8月上旬から10月上旬にかけての二ヶ月間行われている。

開催当初の目的は「身近にある草木にはこんな薬効がある」ことを知ってもらい、植物に興味を持ってもらうという観点だったため、展示されていたのは民間薬として利用されている薬用植物が多かったようである。

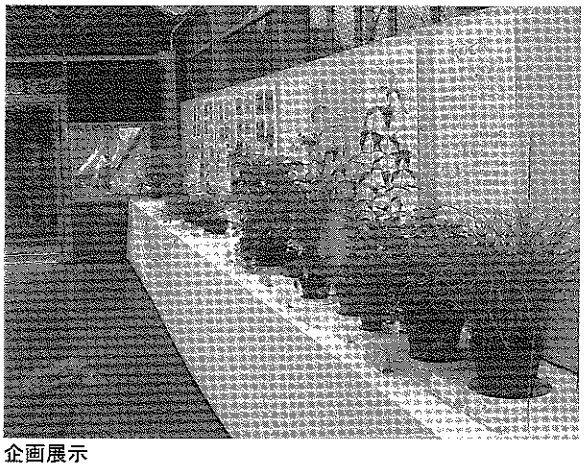
現在では漢方薬に利用される薬用植物も増え、23年度は薬用植物約150種、毒草約15種の展示を行った。

今後の参考になるように今年度の展示内容及び特徴と問題点を記録する。

展示概要

展示区分は大まかに分けて、薬用植物の実物展示、パネル展示、企画展示に分かれている、実物展示ではどのように展示区分をするのかは決まっておらず、その時の担当者が個々で判断して展示している。利用する部位(全草・実・根等)によって分けていることもあれば、漢方薬・民間薬・毒草で分けてることもある。パネル展示では薬用植物の採取方法や民間薬としての、調整、利用方法や薬用酒、薬膳料理の紹介を行っている。企画展示では薬用植物に関連した企画をパネル展示や実物展示している。例えば、昨年度は「秋の七草と薬用植物」、今年度は「薬用植物と間違えやすい毒草」というテーマで展示を行った。

薬用植物の実物展示



企画展示

特徴と問題点

1. 薬用植物の種類

当園の薬用植物は民間薬として利用される植物が多めである。これは身近な植物が薬になるという観点で薬用植物展を始めたためであるが、トウキやダイオウ等の漢方として有名な植物は保有していた方がよいと考える。

2. 開催期間の時期と長さ

開催期間は夏から秋の二ヶ月間にわたって展示温室内で行われるため、病害虫の発生や天候によって植物が傷み易く、状況を見て入替・薬散等の対処を随時する必要がある。ただし、草本性の植物には予備鉢があるため入替を行えるが、木本性の植物には一部を除いて予備鉢が無いため、傷んでしまうとその木本性植物の展示を取り止めるしかなくなる。この対処には挿し木等で予備鉢を殖やすしかないが、木本性植物は大きく育つため、場所の確保と灌水、除草等の手間が問題となってくる。

3. 目立ち難い

薬用植物展開催期間中の時期は花実をつける植物が少なく、また花実をつけても目立ち難いため来園者に気付かれにくい。薬用植物に興味がある人や撮影者はよく観察するために気づいてもらえるが、若い人や子どもは気づかずに通り過ぎてしまうことがよくある。この対策として花実がある植物は展示棚の前面に移動させ、花実あることを示すラベルを設置する等の対応が必要だと感じる。